

令和5年度

地方独立行政法人東京都立病院機構
業務実績評価書
(案)

東京都

I 全体評価

1 総 評

第一期中期目標期間の2年目となる令和5年度は、全体として年度計画を概ね順調に実施しており、中期計画の達成に向け着実な業務の進捗状況にある。

○ 高く評価すべき事項

地方独立行政法人東京都立病院機構は、東京都の医療政策として求められる行政的医療の安定的かつ継続的な提供をはじめ、高度・専門的医療の提供及び地域医療の充実への貢献に向けた取組等を推進することにより、都民の健康を守り、その増進に寄与することを役割としている。令和5年度においては、以下の事項をはじめ、その役割を果たしたことを高く評価する。

- ・ 機構全体で「断らない救急の徹底」等に取り組み、小児患者を含めた救急患者を積極的に受け入れる等、行政的医療を着実に提供したほか、今後の総合診療医の確保・育成に向けた様々な取組を積極的に実施した。
- ・ 平時における災害対応力強化の取組を能登半島地震への対応に生かし、DMAT等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援等、被災地支援に最大限貢献した。また、各種感染症へ幅広く対応しつつ、新型コロナの5類移行後も様々な取組を継続するなど、災害や公衆衛生上の緊急事態に率先して対応した。
- ・ 業務改善・効率化や、多くの職員の参画を得ながら検討を重ねた「都立病院人材育成ビジョン」の策定、人材確保、働き方改革への対応等、業務運営に係る幅広い取組を実施した。

○ 改善・充実を求める事項

- ・ 総合診療医の育成については、目指す「総合診療医」像や、総合診療の提供に向けた今後の方向性と具体的な取組を明確にした上で、地域医療機関との連携を

強化し、地域住民の安心に繋げられたい。特に、広尾病院における取組は重要であり、今後に期待する。

- 安定的な経営基盤の維持のため、病院ごとに財務内容の悪化要因について詳細に分析した上で、収支の改善に取り組まれたい。また、各経営指標については、病院ごとに目標値を設定し、各病院の運営状況を職員にしっかりと周知するほか、病院の機能に応じた適正な平均在院日数となるよう注力されたい。
- 適切な評価を実施するため、例えば救急医療では救急搬送患者数のような量的な指標だけでなく、受入依頼に対する応需率等の、病院の役割を果たしたのかどうか分かる指標を設定した上で、自己評価をされたい。また、病院別の自己評価等についても検討されたい。

2 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

＜行政的医療や高度・専門的医療等の安定的かつ継続的な提供＞

- ・ がん医療について、先進的な医療機器を活用した手術や放射線治療の一層の推進や、薬物療法の体制整備により、積極的な患者受入れを行ったほか、がんゲノム医療や患者のライフステージに応じた相談支援の実施等、質の高いがん医療を提供した。
- ・ 機構全体として「断らない救急の徹底」等に取り組み、三次救急や精神科救急等を含め着実に救急医療を提供したことに加え、R S ウイルス等の各種感染症流行時においても積極的な救急患者の受入れに努めた。
- ・ 災害医療について、危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院機構合同災害訓練の実施や研修等による災害対応力の強化に取り組んだ。さらに、能登半島地震への対応では、DMA T等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援など、被災地支援に最大限貢献した。
- ・ 周産期医療について、ハイリスク妊産婦や新生児等への高度で専門的な医療の提供や、一般医療機関では対応が難しい未受診妊婦や精神疾患を合併している妊産婦への対応のほか、産後の相談支援体制の充実に向けた取組等を実施した。
- ・ 小児医療について、移行期医療や医療的ケア児への支援、児童・思春期精神科医療等を着実に実施したほか、先進的かつ専門的の高い小児医療の提供や、AYA世代患者の療養環境の充実に取り組んだ。さらに、R S ウイルス感染症等の各種感染症の流行時にも、小児救急患者を積極的に受け入れた。
- ・ 感染症医療について、新型コロナの5類移行後も、都と連携して様々な取組を継続したほか、各種感染症にも幅広く対応した。また、総合診療医や看護師

の育成、地域における感染対応力の強化等、様々な取組を行った。

- ・ 難病医療について、神経病院における3つの疾患領域別センターの運営や各病院における相談支援等を着実に実施したことに加え、駒込病院及び小児総合医療センターにおいて専門センターを設立して体制強化を図るなど、質の向上に向けて積極的に取り組んだ。
- ・ 総合診療科と専門診療科が連携して幅広い視野から総合診療を提供したほか、今後の総合診療医の確保・育成に向け、プログラムの策定や国内外からの著名な講師の招へい、広尾病院での病院総合診療科の設置等、様々な取組を積極的に実施した。
- ・ その他の行政的医療、高度・専門的医療等については、アレルギー疾患、腎移植、脳血管疾患、心疾患等の幅広い疾患に対応しつつ、外国人向け医療を着実に実施したほか、ロボット支援下手術等の低侵襲な医療を数多く提供した。

<災害や公衆衛生上の緊急事態への率先した対応>

- ・ 平時における災害対応力強化の取組を能登半島地震への対応に生かし、DMAT等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援等、被災地支援に最大限貢献したほか、各種感染症へ幅広く対応しつつ、新型コロナウイルスの5類移行後も様々な取組を継続した。

<地域医療の充実への貢献、安全で安心できる質の高い医療の提供>

- ・ 東京総合医療ネットワークに未加盟の都立病院が順次加盟申請を行ったほか、LINEアカウントの開設や島しょ地域での出張都民公開講座、Tokyoヘルスケアサポーター養成講座の開催、次年度以降の取組に向けた東京都住宅政策本部及び東京都住宅供給公社との包括連携協定の締結など、様々な取組を着実に実施した。
- ・ アドバンス・ケア・プランニングの推進やWi-Fiの整備等、患者の立場

に立った意思決定支援や環境整備に取り組んだほか、都民への効果的な広報活動を推進した。また、インシデント・アクシデント・レポートの活用や地域医療機関への感染管理指導等、医療安全管理体制の確保や院内感染対策の推進に取り組むとともに、Q I の目標値設定により、継続的に改善に取り組む体制を確保した。

- ・ データプラットフォームの導入等、診療データの集積と活用に向けて取り組んだほか、国家戦略特区を活用した先進医療や医師主導治験といった臨床試験等を着実に推進した。

3 法人の業務運営及び財務状況に関する事項

- ・ 新卒看護師離職率が目標を達成したほか、業務改善・効率化や多くの職員の参画を得ながら検討を重ねた「都立病院人材育成ビジョン」の策定、人材確保、働き方改革への対応等、幅広い取組を実施した。
- ・ 「断らない救急の徹底」に機構全体で取り組んだほか、コンサルティングを活用して費用の適正化を図るなど、収入の確保と適切な支出の徹底に向けて取り組んだが、各経営指標が目標を下回り、計画を大きく上回る純損失を計上することとなった。

4 その他

(中期目標・中期計画の達成に向けた課題、法人への要望など)

- ・ 令和6年度は、法人設立から3年目となる。中期目標・中期計画の達成に向けて、職員一人ひとりが有する専門性を一層発揮しながら、一丸となって取組を進めていく必要がある。
- ・ 引き続き収入の確保と適切な支出の徹底に努めながら、行政的医療及び専門的医療等の提供や地域医療の充実への貢献といった役割を将来にわたり安定的かつ継続的に果たしていくことを期待する。

Ⅱ 項目別評価

項目別評価に当たっては、法人から提出された業務実績等報告書の検証を踏まえ、事業の進捗状況及び成果について、年度計画の評価項目ごとに以下の5段階で評価を行った。

評 定	S … 年度計画を大幅に上回って実施している A … 年度計画を上回って実施している B … 年度計画を概ね順調に実施している C … 年度計画を十分に実施できていない D … 業務の大幅な見直し、改善が必要である
--------	---

項目別評価総括表

中期目標を達成するためにとるべき措置	項目番号	年度評価					中期目標期間評価	評定説明	備考
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
第1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置									
1 行政的医療や高度・専門的医療等の安定的かつ継続的な提供									
(1) 行政的医療の安定的かつ継続的な提供									
(2) 各医療の提供									
ア がん医療	1	A	A					14 頁	
イ 精神疾患医療	2	A	B					16 頁	
ウ 救急医療	3	A	A					18 頁	
エ 災害医療	4	B	S					20 頁	
オ 島しょ医療	5	A	B					21 頁	
カ 周産期医療	6	A	A					22 頁	
キ 小児医療	7	S	A					24 頁	
ク 感染症医療	8	S	A					26 頁	
ケ 難病医療	9	A	A					27 頁	
コ 障害者医療	10	A	B					28 頁	
サ 総合診療の提供	11	B	A					29 頁	
シ その他の行政的医療、高度・専門的医療等の提供	12	B	A					30 頁	
2 災害や公衆衛生上の緊急事態への優先した対応									
(1) 災害医療における緊急事態への対応	13	S	S					32 頁	
(2) 感染症医療における緊急事態への対応									
3 地域医療の充実への貢献									
(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組	14	B	B					34 頁	
(2) 健康増進及び疾病予防に向けた普及啓発	15	B	B					37 頁	
4 安全で安心できる質の高い医療の提供									
(1) 患者中心の医療の推進	16	B	B					38 頁	
(2) 質の高い医療の提供	17	A	B					40 頁	
5 診療データの活用及び臨床研究・治験の推進	18	B	B					42 頁	

中期目標を達成するためにとるべき措置	項目 番号	年度評価					中期目標 期間評価	評定 説明	備考
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度			
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置									
1 効率的・効果的な法人運営体制の構築	19	A	A					43 頁	
2 人材の確保・育成									
3 効率的・効果的な業務運営									
(1) 働きやすい勤務環境の整備									
(2) 弾力的な予算執行									
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置									
1 財務内容の改善	20	A	C					46 頁	
(1) 収入の確保									
(2) 適切な支出の徹底									
第10 その他業務運営に関する重要事項									
1 病院運営における DX の推進	21	B	B					48 頁	
2 施設・設備の整備									
3 適正な業務運営の確立									
(1) 情報セキュリティ・個人情報保護の 徹底									
(2) コンプライアンスの推進									
4 外部からの意見聴取									

第1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 行政的医療や高度・専門的医療等の安定的かつ継続的な提供

(2) 各医療の提供

各病院等の医療機能に応じて、他の医療機関等との適切な役割分担と密接な連携のもと、次のとおり医療を提供する。

項目	年度計画
1	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>ア がん医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、手術や放射線治療、薬物療法等を組み合わせた集学的治療を推進し、質の高いがん医療を提供する。 ○ 先進的な医療機器を活用して、低侵襲なロボット支援下手術を推進する。 ○ IMRT（強度変調放射線治療装置）や定位放射線治療などにより、高精度な放射線治療を提供する。 ○ 化学療法や分子標的療法等を推進し、症状に応じた質の高い薬物療法を提供する。 ○ がん患者の苦痛を和らげ、自分らしくあることを支援するために、多職種チームによる専門的で、患者・家族のQOLを高める緩和ケアを提供する。 ○ 最先端がん治療の一つとして、身体への負担が少なく、仕事や日常生活との両立が可能な粒子線治療の導入に関する検討を行う。 ○ がんの遺伝子情報から遺伝子変異を明らかにすることにより、標準治療では効果が得られないがん患者等に対して、一人ひとりの体質や病状に合わせたがんゲノム医療を提供する。 ○ 難治性の白血病や悪性リンパ腫、希少な軟部肉腫などのがんに対して、最適な治療を提供する。 ○ 再発がん、合併症を有するがん患者等に対し、総合診療基盤を活用しながら、多職種によるチーム医療を推進し、高度かつ専門性の高い医療を提供する。 ○ 治療ステージに応じた最適な造血幹細胞移植を実施するとともに、移植後患者の長期フォローアップ体制の確立に向けて各医療機関との連携を推進する。 ○ AYA世代のがん患者に応じた最適ながん医療を提供するとともに、患者の就学、就労などライフステージに応じた多様な相談支援を実施する。 ○ 病気に関連した情報提供、退院後の仕事と治療の両立や介護保険などのサービスに関する相談、心の相談などを行うことにより、患者・家族の治療前から退院後の生活までをサポートする。 ○ 東京都立がん検診センターにおいて、内視鏡やCTによる低侵襲な検査等を推進し、高度で精度の高い精密検診を実施するとともに、きめ細やかな検診コースを設定し、多様化する検診ニーズに対応する。

目標値（令和5年度）

がん手術件数

病院名	目標値（件）
東京都立駒込病院	4,122
東京都立豊島病院	391
東京都立荏原病院	79
東京都立墨東病院	984
東京都立多摩総合医療センター	1,004
東京都立多摩北部医療センター	618
東京都立東部地域病院	179
東京都立多摩南部地域病院	160

I M R T ・ 定位放射線治療件数

病院名	目標値（件）
東京都立駒込病院	12,000
東京都立墨東病院	2,486
東京都立多摩総合医療センター	4,800
東京都立多摩北部医療センター	2,589

外来化学療法件数

病院名	目標値（件）
東京都立駒込病院	14,000
東京都立豊島病院	1,649
東京都立荏原病院	700
東京都立墨東病院	7,400
東京都立多摩総合医療センター	2,667
東京都立多摩北部医療センター	2,400
東京都立東部地域病院	1,431
東京都立多摩南部地域病院	1,560

精密検診受診者数

病院名	目標値（人）
東京都立がん検診センター	31,298

評 定 : A（年度計画を上回って実施している）

- 精密検診受診者数は目標値に届かなかったものの、がん手術件数、I M R T ・ 定位放射線治療件数、外来化学療法件数はいずれも順調に推移している。
- 手術支援ロボットを新たに4病院で導入し、体験会や見学会等を開催して地域医療機関との情報共有を図ったほか、駒込病院において放射線治療装置を増設するなど、低侵襲なロボット支援下手術や放射線治療を一層推進した。
- 大塚病院において外来化学療法室を増床したほか、多摩北部医療センターでは、タブレット端末と独自開発アプリの活用により外来通院治療室と薬剤科注射室、ミキシングルームの運用を円滑化し、業務の効率化と患者の待ち時間短縮を図るなど、患者サービスを向上させながら薬物療法を積極的に提供した。
- がんゲノム医療連携病院である駒込病院、多摩総合医療センター、小児総合医療センター及び墨東病院において一人ひとりの体質や病状に合わせたがんゲノム医療を提供した。特に駒込病院では、各診療科の外来担当医師に代わって検査の説明を行う「CGP（がん遺伝子パネル）検査説明外来」を設置し、各診療科の負担軽減を図るとともに、患者へのきめ細やかな説明を実施した。また、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）を診断するための遺伝子検査の実施等にも取り組んだ。
- 小児総合医療センターの子どもがん相談支援センターにおいて、ソーシャルワーカー等が、就学・進学、経済的な問題、家族への心理的サポートなど、様々な相談に対応した。
 - ⇒ 先進的な医療機器を活用した手術や放射線治療の一層の推進や、薬物療法の体制整備により、積極的な患者受入れを行ったほか、がんゲノム医療や患者のライフステージに応じた相談支援の実施等、質の高いがん医療を提供したことは高く評価できる。

項目	年 度 計 画																																
2	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>イ 精神疾患医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、症状に応じた質の高い精神疾患医療を提供する。 ○ 東京都精神科夜間休日救急診療事業に参画し、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）に基づく緊急措置入院等に着実に対応する。 ○ 東京都精神科身体合併症医療事業に参画し、身体疾患を有する精神疾患患者に対して、精神科と他の専門診療科が協働して治療にあたるとともに各病院との連携により、最適な治療を提供する。 ○ 東京都立松沢病院において、アルコール依存症等の患者に、専門的で質の高い治療を提供するとともに、依存症からの回復に向けたデイケアを提供する。 ○ 認知症の鑑別診断と治療、認知症に伴う行動や合併症に対する適切な治療を提供するとともに、患者と家族に対する専門相談を行い、地域における療養生活を支援する。 ○ 児童・思春期の精神疾患に対して適切な治療を提供するとともに、発症や重症化の予防に向けた早期介入・早期支援に取り組む。 ○ 隔離や拘束等の行動制限の最小化などに取り組み、患者の権利擁護を推進する。 ○ 地域の医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、多職種による多様な相談支援を実施して、入院患者の地域移行・定着を積極的に支援する。 ○ 患者の早期回復、社会生活への円滑な復帰に向け、幅広い年齢層を対象としたデイケアをはじめとする多彩な外来プログラムを提供する。 ○ 東京都立松沢病院において、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成 15 年法律第 110 号）に基づき、入院・通院が決定した患者に対して、専門的な精神疾患医療を提供し、社会復帰に向けた継続的な支援を行う。 <p>目標値（令和 5 年度）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: left;">東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数</th> <th colspan="2" style="text-align: left;">精神科身体合併症患者数（新入院）</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立豊島病院</td> <td style="text-align: center;">222</td> <td>東京都立広尾病院</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> <tr> <td>東京都立墨東病院</td> <td style="text-align: center;">209</td> <td>東京都立豊島病院</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td>東京都立多摩総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">227</td> <td>東京都立荏原病院</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>東京都立松沢病院</td> <td style="text-align: center;">500</td> <td>東京都立墨東病院</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>東京都立多摩総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">55</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>東京都立松沢病院</td> <td style="text-align: center;">400</td> </tr> </tbody> </table>	東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数		精神科身体合併症患者数（新入院）		病院名	目標値（人）	病院名	目標値（人）	東京都立豊島病院	222	東京都立広尾病院	15	東京都立墨東病院	209	東京都立豊島病院	20	東京都立多摩総合医療センター	227	東京都立荏原病院	4	東京都立松沢病院	500	東京都立墨東病院	10			東京都立多摩総合医療センター	55			東京都立松沢病院	400
東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数		精神科身体合併症患者数（新入院）																															
病院名	目標値（人）	病院名	目標値（人）																														
東京都立豊島病院	222	東京都立広尾病院	15																														
東京都立墨東病院	209	東京都立豊島病院	20																														
東京都立多摩総合医療センター	227	東京都立荏原病院	4																														
東京都立松沢病院	500	東京都立墨東病院	10																														
		東京都立多摩総合医療センター	55																														
		東京都立松沢病院	400																														

評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 都からの依頼件数が目標件数を大きく下回ったことから、東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数は目標に届かなかったものの、都立病院のみで対応している夜間の緊急措置入院については、原則として依頼のあった全ての案件を受け入れたほか、目標を大きく上回る精神科身体合併症患者を受け入れた。
- 東京都認知症疾患医療センター（地域拠点型）に指定されている松沢病院や荏原病院をはじめとして、各病院において、「もの忘れ外来」等による診療や療養支援に加えて、入院中の認知症患者に対する精神科リエゾンチームや認定看護師等によるケアを実施し、専門的な認知症医療を引き続き提供した。
- 小児総合医療センターを中心に、コロナ禍以降増加した小児の摂食障害に対して身体科と精神科とが連携して対応するなど、質の高い児童・思春期精神科医療を提供した。
- 松沢病院では、行動制限最小化委員会を設置して身体拘束ゼロに取り組むとともに、包括的暴力防止プログラム（CVPPP）等の各種研修を通じ、患者の尊厳と安全を守りながら適切に医療を提供した。
- マニュアルの確認、想定リスクの共有等が不十分であったことから、医療観察法病棟入院患者が一時所在不明となる事故が発生した。
 - ⇒ 松沢病院をはじめとする各都立病院において、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、児童・思春期精神科医療等、専門性の高い精神疾患医療を着実に提供したことは評価できる。引き続き、一時所在不明事故の再発防止策を確実に実行しつつ、精神疾患医療の質の向上に努めてほしい。

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 機構全体で受入体制の強化として「断らない救急の徹底」等に取り組み、救急応需率の共有や断り症例の分析、東京消防庁や近隣病院等との連携強化等、各病院において様々な取組を行った結果、新型コロナ対応と両立しながら積極的に受け入れた令和4年度より多くの救急患者を受け入れ、各指標をコロナ禍前の水準以上に回復させた。
 - また、RSウイルス等の各種感染症の流行により救急需要が急激に高まった際は、地域医療機関と連携を図りながら、小児患者を含め積極的な救急患者の受け入れを推進した。
 - 広尾病院において、HCUを新たに開設することで重症度の高い患者に対して集中的な治療を行う体制を確保するなど、救急患者の受入体制強化や術後患者の管理体制の充実に取り組んだ。
 - 東京ERの運営をはじめとして、初期救急から三次救急までの様々な救急患者に対応したほか、急性大動脈スーパーネットワーク、東京都CCUネットワーク、東京都熱傷救急ネットワークへの参画を通じ、高度で専門的な特殊救急医療を提供した。
 - 精神科身体合併症患者の受け入れや小児の重症・重篤患者等の救命救急など、一般医療機関では対応が難しい専門性の高い救急医療を提供した。
- ⇒ 機構全体として「断らない救急の徹底」等に取り組み、三次救急や、精神科救急等を含め着実に救急医療を提供したことに加え、RSウイルス等の各種感染症流行時においても積極的な救急患者の受け入れに努めたことは高く評価できる。

項目	年 度 計 画
4	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>Ⅰ 災害医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都の方針を踏まえ、基幹災害拠点病院や地域災害拠点中核病院など各病院の役割に応じて災害時に求められる医療を適切に提供する。 ○ 発災後も診療機能を維持できるよう、医薬品や診療材料等の備蓄等を適切に行う。 ○ 東京都立広尾病院における減災対策の取組等を法人内で共有するとともに、災害医療の指導者育成や総合防災訓練等を通じて、各病院等の災害対応力の強化を図る。また、都内の災害拠点病院及び同連携病院等を対象に、当該施設用BCPの策定について個別具体的に支援を行う。 ○ 大規模災害等の発生に備え、指定病院においてDMAT隊員やDPAT隊員を養成するとともに、都の派遣要請に着実に対応する。 ○ 各病院で医療救護班を編成し、都の派遣要請に着実に対応する。 ○ 自治体や関係機関と連携した研修や合同防災訓練等の実施により、連携体制を強化するとともに、減災対策の普及啓発に取り組み、地域の災害対応力の向上を図る。
<p>評 定 : S (年度計画を大幅に上回って実施している)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ DMAT隊員・DPAT隊員等の育成や医薬品等の備蓄を着実に進めるとともに、危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院全体の危機管理に係る基本的対処方針の検討等、危機管理対応力の強化に取り組み、令和6年能登半島地震への適切な対応にもつなげた。 ○ シナリオのない実践的な訓練として、法人本部・病院・所が参加する都立病院機構合同災害訓練を実施したほか、危機管理統括部長による各病院の防災訓練への助言や研修等を実施するなど、機構全体及び各病院の災害対応力を強化した。 ○ 能登半島地震に際しては、都の方針等を踏まえた上で、DMAT(計6班、延べ27名)やJMAT(計13班、延べ56名)を速やかに派遣するとともに、看護師(計14クール、延べ28名)を継続的に派遣することで、被災地の医療現場を支えた。対応にあたっては、現地活動拠点を独自に設置するなど状況に応じた取組を行い、全14病院が協働して対応することで、切れ目のない支援を実現した。 ○ 地域の自治体や関係機関と連携して研修や合同防災訓練等を実施したほか、能登半島地震への対応に係る報告会や映像配信等を通じて都とともに防災対策等の普及啓発に取り組むなど、地域の災害対応力の向上に貢献した。 <p>⇒ 危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院機構合同災害訓練の実施や研修等による災害対応力の強化に取り組んだ。さらに、能登半島地震への対応では、DMAT等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援など、被災地支援に最大限貢献したことは大いに評価できる。</p>	

項目	年 度 計 画				
5	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>オ 島しょ医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都立広尾病院における屋上ヘリポートの24時間運用などにより島しょ地域の救急患者を着実に受け入れるとともに、各病院が連携して質の高い島しょ医療を提供する。 ○ 東京都立広尾病院及び東京都立多摩総合医療センターにおいて、島しょ地域の患者や付き添いの家族等が来院した際に利用できる患者家族宿泊施設を運営し、島しょ地域の患者やその家族のニーズに対応する。 ○ 東京都立広尾病院の画像伝送システムによる遠隔画像診断支援を行うとともに、5G回線を活用した遠隔医療を推進するなど、島しょの医療機関の診療を支援していく。 ○ WEB研修の実施などにより、島しょ地域で働く看護師等の医療人材の育成に貢献する。 ○ 島しょの医療機関のニーズを踏まえながら、看護師等を派遣して教育支援を行うとともに、診療所等との退院支援WEBカンファレンスを行うなどにより、島しょ地域の医療機関等との連携を強化し、退院（帰島）後の療養生活への円滑な移行を着実に支援する。 <p>目標値（令和5年度）</p> <p>島しょ新入院患者数</p> <table border="1" data-bbox="277 1003 791 1081"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立広尾病院</td> <td>1,310</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（人）	東京都立広尾病院	1,310
病院名	目標値（人）				
東京都立広尾病院	1,310				

評 定 : B（年度計画を概ね順調に実施している）

- 広尾病院において、島しょ新入院患者数は目標値には届かなかったものの、島しょ地域の救急患者の受入れにあたり屋上ヘリポートを24時間運用するなど、島しょから都内医療機関への救急患者搬送について、例年と同様に、全体の約9割を都立病院で受け入れた。
 - 広尾病院及び多摩総合医療センターにおいて、島しょ地域の患者や付き添いの家族等が来院した際に利用できる患者家族宿泊施設を運営し、島しょ患者やその家族のニーズに対応した。
 - 画像伝送システムによる遠隔画像診断支援、5Gを活用した遠隔診療支援等の実施により、島しょ医療の充実へ貢献した。また、少人数で島しょ医療を支える医師の研修、休暇等の機会確保を支援するため、医師の不在時に代診医を派遣した。
 - 保健所や役場との情報交換会、医療機関への研修等を実施し、島しょ地域における医療人材の育成に貢献した。また、医療機関等との退院調整WEBカンファレンスを実施することで、島しょとの連携を強化するとともに、退院（帰島）後の療養生活への円滑な移行に取り組んだ。
- ⇒ 島しょ地域からの救急患者等の受け入れを着実に行ったほか、5Gを活用した遠隔診療支援、代診医の派遣、医療機関等との連携強化など、質の高い島しょ医療の提供に向けて継続的に取り組んでいることは評価できる。引き続き、島しょ地域における医療等の充実に向けた取組を推進してほしい。

項目	年 度 計 画																						
6	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>カ 周産期医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、質の高い周産期医療を提供する。 ○ 地域の医療機関との連携を強化しながら、ハイリスク妊産婦や新生児等に対して高度で専門的な周産期医療を提供する。 ○ 地域の医療機関との役割分担を進め、分娩や緊急時には各病院が対応を行うセミオープンシステムを一層推進する。 ○ 母体救命対応総合周産期母子医療センターにおいて、救命救急センターと産科、新生児科等が連携し、緊急に母体救命処置が必要な妊産婦等を確実に受け入れる。 ○ 一般医療機関では対応が難しい未受診妊婦や精神疾患合併母体の周産期管理など様々なリスクを抱えた妊産婦に適切な医療等を提供する。 ○ 自治体や地域の関係機関との連携を強化するとともにソーシャルワーカーや心理士等のチームにより、社会的な支援を必要とする妊産婦に対する相談支援体制を充実する。 ○ 在宅医療を担う地域の医療機関や訪問看護ステーション等への技術支援やネットワーク強化に取り組み、NICU等での治療を終えた入院児の在宅療養への移行を推進する。 ○ 母子の円滑な退院を支援するコーディネーターを配置し、入院早期からの退院支援に取り組む。 <p>目標値（令和5年度）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: left;">母体搬送受入件数</th> <th colspan="2" style="text-align: left;">超低出生体重児取扱件数</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立大塚病院</td> <td style="text-align: center;">180</td> <td>東京都立大塚病院</td> <td style="text-align: center;">21</td> </tr> <tr> <td>東京都立墨東病院</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td>東京都立墨東病院</td> <td style="text-align: center;">36</td> </tr> <tr> <td>東京都立多摩総合医療センター</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">208</td> <td>東京都立多摩総合医療センター</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">43</td> </tr> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td>東京都立小児総合医療センター</td> </tr> </tbody> </table>	母体搬送受入件数		超低出生体重児取扱件数		病院名	目標値（件）	病院名	目標値（件）	東京都立大塚病院	180	東京都立大塚病院	21	東京都立墨東病院	200	東京都立墨東病院	36	東京都立多摩総合医療センター	208	東京都立多摩総合医療センター	43	東京都立小児総合医療センター	東京都立小児総合医療センター
母体搬送受入件数		超低出生体重児取扱件数																					
病院名	目標値（件）	病院名	目標値（件）																				
東京都立大塚病院	180	東京都立大塚病院	21																				
東京都立墨東病院	200	東京都立墨東病院	36																				
東京都立多摩総合医療センター	208	東京都立多摩総合医療センター	43																				
東京都立小児総合医療センター		東京都立小児総合医療センター																					

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 超低出生体重児取扱件数は目標に届かなかったものの、母体搬送受入や分娩対応を着実に実施した。
- 大塚病院において、M F I C Uの増床によりハイリスク妊産婦への対応体制を強化するなど、地域医療機関との連携強化を図りながら、ハイリスク妊産婦や新生児等に対して高度で専門的な周産期医療を提供した。
- 母体救命対応総合周産期母子医療センターにおいて、院内各科が連携し、緊急に母体救命処置が必要な妊産婦等を確実に受け入れた。また、各病院において、一般医療機関では対応が難しい未受診妊婦や精神疾患を合併している妊産婦等の受入れを積極的に行った。
- 豊島病院や荏原病院で産後ケア事業の受託を拡大し、母子に対する心身のケアや育児の相談支援を行うことで、産後も安心して子育てができるよう相談支援体制の充実に向けて取り組んだ。また、大塚病院及び荏原病院で無痛（和痛）分娩を開始するなど、都民ニーズを踏まえた新たな取組にも着手した。
- 研修等の実施により地域の医療機関や訪問看護ステーション等への技術支援や連携強化に取り組むとともに、N I C U入院児支援コーディネーターを配置し入院早期からの退院支援を行うなど、N I C U等での治療を終えた入院児の円滑な退院や在宅移行の推進に継続的に取り組んだ。
 - ⇒ ハイリスク妊産婦や新生児等への高度で専門的な医療の提供や、一般医療機関では対応が難しい未受診妊婦や精神疾患を合併している妊産婦への対応のほか、産後の相談支援体制の充実に向けた取組等を実施したことは高く評価できる。

項目	年 度 計 画												
7	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>キ 小児医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、症状に応じた質の高い小児医療を適切に提供する。 ○ 小児がんや小児慢性特定疾病、脳神経・筋疾患など希少疾患や難治性疾患に対して、先進的かつ専門性の高い小児医療を適切に提供する。 ○ 東京都立小児総合医療センターにおいて、呼吸器や循環器系疾患をはじめとする重症・重篤な患者を積極的に受け入れ、高度で専門的な小児医療を提供する。 ○ AYA世代の患者に適切な医療を提供する。特に、東京都立小児総合医療センターにおいては、院内に整備したAYAルームを活用し、同年代の患者同士の交流の機会を提供する等、患者が安心して治療を受けられる環境を整備する。 ○ AYA世代の患者や家族の不安や悩み、疑問等の解消に向けて、就学や就労などライフステージに応じた多様な相談支援を実施する。 ○ 東京都立小児総合医療センターにおいて、東京都立多摩総合医療センター等と連携しながら、患者の成長に合わせた移行期医療を適切に提供するとともに、移行期医療に取り組む医療機関に対する研修や相談支援等を実施して関係機関とのネットワーク構築を推進する。 ○ 児童・思春期の精神疾患に対して適切な治療を提供するとともに、発症や重症化の予防に向けた早期介入・早期支援に取り組む。 ○ 地域の医療機関等との連携を強化し、医療的ケア児の急変時の受入れやレスパイト入院に着実に対応する。 ○ 地域のニーズに応じて、認定看護師等を地域の医療機関等に派遣し、医療的ケア児の在宅移行支援に必要なノウハウを提供する。 ○ 東京都立小児総合医療センター、東京都立多摩北部医療センター、東京都立多摩南部地域病院が連携して、多摩地域における医療的ケア児の受入体制の整備や円滑な在宅移行に向けた支援体制の構築について検討を進める。 <p>目標値（令和5年度）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">救急患者数（小児）</td> <td style="width: 50%; border: none;">P I C U 新入室患者数（院内転棟除く）</td> </tr> <tr> <td style="border: none;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">3,300</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td style="border: none;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">760</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	救急患者数（小児）	P I C U 新入室患者数（院内転棟除く）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">3,300</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（人）	東京都立小児総合医療センター	3,300	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">760</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（人）	東京都立小児総合医療センター	760
救急患者数（小児）	P I C U 新入室患者数（院内転棟除く）												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">3,300</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（人）	東京都立小児総合医療センター	3,300	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">760</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（人）	東京都立小児総合医療センター	760				
病院名	目標値（人）												
東京都立小児総合医療センター	3,300												
病院名	目標値（人）												
東京都立小児総合医療センター	760												

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 小児がん拠点病院である小児総合医療センターにおいて、集学的治療を要する重症小児がんへの対応を行ったほか、神経病院において、小児慢性特定疾病、脳神経・筋疾患など希少疾患や難治性疾患に対応するなど、先進的かつ専門性の高い小児医療を適切に提供した。
- 東京都こども救命センターである小児総合医療センターにおいて、RSウイルス感染症等に積極的に対応したほか、機構全体で「断らない救急の徹底」に取り組み、重症・重篤な患者等を含め、新型コロナ対応と両立しながら積極的に受け入れた令和4年度より更に多くの救急患者を受け入れた。
- 小児総合医療センターでは、AYAルームでレクリエーション大会を開催するなど、AYA世代患者の交流の場の提供等に取り組んだ。また、駒込病院では、AYA世代支援チームを編成し、多様な相談支援、がん患者ピアサポートの開催等、多職種による幅広い取組を実施した。
- 小児総合医療センターと多摩総合医療センターの連携による患者の成長に合わせた移行期医療の適切な提供のほか、大塚病院及び小児総合医療センターでの東京都医療的ケア児支援センター（東京都受託事業）で、医療的ケア児の在宅療養への円滑な移行に向けた相談支援を実施した。
- 小児総合医療センターを中心に、コロナ禍以降増加した小児の摂食障害に対して身体科と精神科が連携して対応するなど、質の高い児童・思春期精神科医療を提供した。
 - ⇒ 移行期医療や、医療的ケア児への支援、児童・思春期精神科医療等を着実に実施したほか、先進的かつ専門性の高い小児医療の提供や、AYA世代患者の療養環境の充実に取り組んだ。さらに、RSウイルス感染症等の各種感染症の流行時にも、小児救急患者を積極的に受け入れたことは高く評価できる。

項目	年 度 計 画
8	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>ク 感染症医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都が行う感染症対策を踏まえながら、各病院の感染症医療提供体制を整備し、各病院の役割に応じた感染症医療を着実に提供する。 ○ 感染症専門医を安定的に確保するとともに、他の医療機関等と連携して感染症や合併する症状に対応できる総合診療医を育成する。 ○ 感染管理認定看護師などの専門性を有する看護師を安定的に確保・育成する。 ○ 職員の感染症対応力を段階的に向上させる育成プログラムに基づき、有事の際に即戦力となる看護師等の育成に取り組み、法人全体の感染症対応力の強化を図る。 ○ 都や保健所、地域の医療機関等の関係機関との連携を強化し、患者受入訓練の実施や地域ニーズに応じて職員を派遣し感染管理に関する指導・助言を行うなど、地域の感染症対応力の強化に貢献する。
<p>評 定 : A (年度計画を上回って実施している)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナの5類移行後も、病床の確保、発熱外来や高齢者等医療支援型施設(府中)の運営、後遺症相談窓口での対応等、様々な取組を継続し、都における通常の医療提供体制への円滑な移行に貢献した。 ○ R Sウイルス、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱等、各感染症の流行時には、都や地域医療機関と連携しながら積極的な対応を行い、多くの救急患者を受け入れた。 ○ 新たに総合診療専門研修プログラムを策定するなど、感染症や合併する症状にも対応できる総合診療医の育成に取り組んだほか、機構の感染症対応力向上プログラムに基づき、有事の際に即戦力となる看護師等を育成した。 ○ 「感染管理向上加算1」を取得している各病院において、保健所や地域の医療機関と連携し、合同カンファレンスの開催や訪問等による感染管理指導を行うなど、令和4年度に引き続き、地域における感染症対応力の強化に取り組んだ。 <p>⇒ 新型コロナの5類移行後も、都と連携して様々な取組を継続したほか、各種感染症にも幅広く対応した。また、総合診療医や看護師の育成、地域における感染対応力の強化等、様々な取組を行ったことは高く評価できる。</p>	

項目	年 度 計 画								
9	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>ケ 難病医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、症状に応じた質の高い難病医療を提供する。 ○ 脳・神経系難病やリウマチ・膠原病系難病、特定内臓系難病等に対して、高度で専門的な難病医療を着実に提供する。○ 東京都立神経病院において、ALS（筋萎縮性側索硬化症）、パーキンソン病・運動障害疾患、てんかんなどの疾患領域別センターを運営し、診断から症状に応じた治療、在宅療養に至るまで一貫した専門性の高い難病医療を提供するとともに、心理的ケアや地域生活のフォローを含む包括的診療を提供する。 ○ 就労・就学と治療の両立など、患者の様々なニーズに応じた相談支援を実施する。 ○ 地域の医療機関等のニーズに応じた研修・講演会等の開催や、摂食・嚥下障害等に関する専門人材の派遣などにより、地域における難病患者の在宅療養に関するケア技術の向上を支援する。 <p>目標値（令和5年度）</p> <table border="1" data-bbox="277 808 791 920"> <caption>ALSセンター介入率</caption> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立神経病院</td> <td>32.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="831 808 1345 920"> <caption>てんかん手術件数</caption> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>目標値 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立神経病院</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値 (%)	東京都立神経病院	32.0	病院名	目標値 (件)	東京都立神経病院	39
病院名	目標値 (%)								
東京都立神経病院	32.0								
病院名	目標値 (件)								
東京都立神経病院	39								

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 都の神経難病の拠点である神経病院を中心に積極的な取組を継続し、指標はいずれも目標値を上回った。
 - 駒込病院では、IgG4関連疾患センターを設立し、駒込病院から提唱された新しい疾患であるIgG4関連疾患について、院内各科の連携を深化させたことで、地域からのニーズに応えられる体制を整備した。
 - 小児総合医療センターでは、炎症性腸疾患（IBD）センターを開設し、小児期発症IBDについて、多職種チームによる多角的な治療や移行期医療に積極的に取り組んだ。
 - 神経病院において、3つの疾患領域別センター（「ALS/MNDセンター」、「パーキンソン病・運動障害疾患センター」、「てんかん総合治療センター」）を運営し、診断から治療、在宅療養に至るまでの一貫した難病医療を提供しつつ、地域医療機関への広報活動に注力し、積極的な患者受入れに取り組んだ。
 - 神経病院において、東京都多摩難病相談・支援室（都受託事業）や患者・地域サポートセンターで難病療養相談や就労相談を行い、患者の様々なニーズに応じた相談支援を実施したほか、地域の医療機関のニーズに応じた研修・講演会等の開催や訪問看護ステーションへの看護師派遣など、専門人材による難病患者の在宅療養に関するケア技術向上支援等に取り組んだ。
- ⇒ 神経病院における3つの疾患領域別センターの運営や各病院における相談支援等を着実に実施したことに加え、駒込病院及び小児総合医療センターにおいて専門センターを設立して体制強化を図るなど、難病医療の質の向上に向けて積極的に取り組んだことは高く評価できる。

項目	年 度 計 画
10	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>コ 障害者医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、高度で専門性の高い総合診療基盤を生かした障害者の合併症医療や障害者歯科医療等を適切に提供する。 ○ 地域の医療機関や訪問看護ステーション等への技術支援やネットワークの強化、在宅療養患者の急変・増悪時の受入れ等に着実に対応する。 ○ 地域の医療機関と連携し、在宅療養に移行した障害児者のレスパイトに対応する。
<p>評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都精神科身体合併症医療事業に参画し、精神科と身体科の連携や病院間での連携により精神科身体合併症医療を提供した。また、全身麻酔下での歯科治療等、一般医療機関では対応が困難な患者に対して、地域の医療機関と連携しながら障害者歯科医療を提供した。 ○ 東京都訪問看護教育ステーション事業における研修生の受入れなど、訪問看護ステーション等への技術支援や連携強化に取り組むとともに、在宅療養患者の急変・増悪時の受入れ等に着実に対応することで、障害者の在宅療養への移行を支援した。 ○ 東京都在宅難病患者一時入院事業、重症心身障害児等在宅療育支援事業に参画するなど、在宅療養に移行した障害児者のレスパイト入院に着実に対応した。 <p>⇒ 障害者の合併症医療や障害者歯科医療を着実に提供したほか、地域への技術支援、レスパイト入院対応等、障害者を含む在宅療養患者の支援に継続的に取り組んだことは評価できる。引き続き、専門的な障害者医療の提供と地域医療の質の向上に向けた取組を推進してほしい。</p>	

項目	年 度 計 画
11	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>サ 総合診療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合診療医を安定的に確保し、総合診療科と専門診療科、多職種が連携しながら、入院患者の様々な症候に対して幅広い視野から包括的かつ全人的な医療を提供する。 ○ 複数の疾患を有するなど特定の診療科だけでは対応が難しい患者を積極的に受け入れ、患者に内在する多様な疾患に適切に対応する。 ○ 様々な症候に対して適切な初期診療と継続的な診療を提供できる総合診療医について、活用が進んでいる海外の知見も活用し、効果的な育成プログラムを検討するとともに、講演会やホームページ等で総合診療医の魅力や役割を発信し、理解促進を図ることで、総合診療医を目指す医師の裾野拡大につなげるなど、大学や地域の医療機関と連携しながら確保・育成に取り組む。 ○ 東京都立広尾病院において、新たに病院総合診療科を設置し、診療体制を充実するとともに、育成の場として活用する。

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 令和4年度に策定した「都立病院における総合診療医の育成・活用方針」に基づき、国内外から総合診療の分野で著名な講師を招へいし、症例検討会や回診指導のほか、レクチャーやワークショップ、医療の質・安全向上に関するシンポジウム等、様々な取組を実施した。例えばレクチャーは81回実施し、機構外からの参加者696人を含む延1,688人が参加するなど、医師の技能向上や総合診療の普及等に取り組んだ。
 - 東京医師アカデミーにおいて総合診療科専攻医の確保・育成に取り組んだほか、新たに外部有識者を交えながら総合診療推進会議を実施し、「ALL東京で総合診療医を育成」を柱とする「東京都立病院機構 総合診療専門研修プログラム」を策定したことで、令和6年度以降の総合診療医の育成に向けた体制を整備した。
 - 広尾病院をモデルとして、新たに病院総合診療科を設置し、診療体制の充実を図るとともに、実務を通じた総合診療医等の育成に向けて取り組んだ。病院総合診療科では、各科との連携強化のもとで病床管理、術後管理等を実施したほか、救急対応に携わる体制を構築するなど、病院の総合診療医を育成するための体制を強化した。
- ⇒ 総合診療科と専門診療科が連携して幅広い視野から総合診療を提供したほか、今後の総合診療医の確保・育成に向け、プログラムの策定や、国内外からの著名な講師の招へい、広尾病院での病院総合診療科の設置等、様々な取組を積極的に実施したことは高く評価できる。こうしたプログラム等に基づき、令和6年度からの育成に期待する。

項目	年 度 計 画																																																					
12	<p>(2) 各医療の提供</p> <p>シ その他の行政的医療、高度・専門的医療等の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の機能に応じて、一般医療機関では対応が難しい行政的医療をはじめとする質の高い医療を適切に提供する。 ○ 東京都アレルギー疾患医療拠点病院である東京都立小児総合医療センターにおいて、重症及び難治性のアレルギー疾患に対し多職種が連携して、迅速な診断や適切な治療等、専門性の高い医療を提供する。 ○ 東京都立大久保病院において、地域の医療機関との連携を強化し、生体腎移植が必要な患者の積極的な受入れを推進する。 ○ 外国人向け医療コーディネーターや医療通訳の配置等により、外国人が安心して適切な医療を受けられる環境を整備する。 ○ 高齢化に伴い増加が予想される脳血管疾患医療や心疾患医療、消化器医療など、地域で必要とされる医療の提供体制を強化し、適切に医療を提供する。 ○ 不妊に対する心理的、経済的な不安や悩みに対する相談支援を実施するとともに、関係機関と調整の上、不妊治療実施に向けた準備を進めていく。 ○ 内視鏡手術や腹腔鏡下手術、血管内治療など、身体に負担が少ない低侵襲な医療を提供する。 ○ 先進的な医療機器を活用して、低侵襲なロボット支援下手術を推進する。 ○ 新たな医療課題や地域の医療課題が生じた際に、各病院の機能に応じて積極的に対応する。 <p>目標値（令和5年度）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>全身麻酔手術件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">1,600</td></tr> <tr><td>東京都立大久保病院</td><td style="text-align: center;">875</td></tr> <tr><td>東京都立大塚病院</td><td style="text-align: center;">2,056</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">3,208</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">1,629</td></tr> <tr><td>東京都立荏原病院</td><td style="text-align: center;">1,400</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">3,300</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">5,500</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">1,168</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">1,680</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">1,350</td></tr> <tr><td>東京都立神経病院</td><td style="text-align: center;">317</td></tr> <tr><td>東京都立小児総合医療センター</td><td style="text-align: center;">4,100</td></tr> </tbody> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>ロボット支援下手術件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">10</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">300</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">62</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">200</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">300</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">54</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">36</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">24</td></tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>生体腎移植件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立大久保病院</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	<p>全身麻酔手術件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">1,600</td></tr> <tr><td>東京都立大久保病院</td><td style="text-align: center;">875</td></tr> <tr><td>東京都立大塚病院</td><td style="text-align: center;">2,056</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">3,208</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">1,629</td></tr> <tr><td>東京都立荏原病院</td><td style="text-align: center;">1,400</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">3,300</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">5,500</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">1,168</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">1,680</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">1,350</td></tr> <tr><td>東京都立神経病院</td><td style="text-align: center;">317</td></tr> <tr><td>東京都立小児総合医療センター</td><td style="text-align: center;">4,100</td></tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立広尾病院	1,600	東京都立大久保病院	875	東京都立大塚病院	2,056	東京都立駒込病院	3,208	東京都立豊島病院	1,629	東京都立荏原病院	1,400	東京都立墨東病院	3,300	東京都立多摩総合医療センター	5,500	東京都立多摩北部医療センター	1,168	東京都立東部地域病院	1,680	東京都立多摩南部地域病院	1,350	東京都立神経病院	317	東京都立小児総合医療センター	4,100	<p>ロボット支援下手術件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">10</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">300</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">62</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">200</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">300</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">54</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">36</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">24</td></tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立広尾病院	10	東京都立駒込病院	300	東京都立豊島病院	62	東京都立墨東病院	200	東京都立多摩総合医療センター	300	東京都立多摩北部医療センター	54	東京都立東部地域病院	36	東京都立多摩南部地域病院	24	<p>生体腎移植件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立大久保病院</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立大久保病院	10
	<p>全身麻酔手術件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">1,600</td></tr> <tr><td>東京都立大久保病院</td><td style="text-align: center;">875</td></tr> <tr><td>東京都立大塚病院</td><td style="text-align: center;">2,056</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">3,208</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">1,629</td></tr> <tr><td>東京都立荏原病院</td><td style="text-align: center;">1,400</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">3,300</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">5,500</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">1,168</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">1,680</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">1,350</td></tr> <tr><td>東京都立神経病院</td><td style="text-align: center;">317</td></tr> <tr><td>東京都立小児総合医療センター</td><td style="text-align: center;">4,100</td></tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立広尾病院	1,600	東京都立大久保病院	875	東京都立大塚病院	2,056	東京都立駒込病院	3,208	東京都立豊島病院	1,629	東京都立荏原病院	1,400	東京都立墨東病院	3,300	東京都立多摩総合医療センター	5,500	東京都立多摩北部医療センター	1,168	東京都立東部地域病院	1,680	東京都立多摩南部地域病院	1,350	東京都立神経病院	317	東京都立小児総合医療センター	4,100	<p>ロボット支援下手術件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">10</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">300</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">62</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">200</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">300</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">54</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">36</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">24</td></tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立広尾病院	10	東京都立駒込病院	300	東京都立豊島病院	62	東京都立墨東病院	200	東京都立多摩総合医療センター	300	東京都立多摩北部医療センター	54	東京都立東部地域病院	36	東京都立多摩南部地域病院	24						
	病院名	目標値（件）																																																				
	東京都立広尾病院	1,600																																																				
	東京都立大久保病院	875																																																				
	東京都立大塚病院	2,056																																																				
	東京都立駒込病院	3,208																																																				
	東京都立豊島病院	1,629																																																				
	東京都立荏原病院	1,400																																																				
	東京都立墨東病院	3,300																																																				
	東京都立多摩総合医療センター	5,500																																																				
	東京都立多摩北部医療センター	1,168																																																				
東京都立東部地域病院	1,680																																																					
東京都立多摩南部地域病院	1,350																																																					
東京都立神経病院	317																																																					
東京都立小児総合医療センター	4,100																																																					
病院名	目標値（件）																																																					
東京都立広尾病院	10																																																					
東京都立駒込病院	300																																																					
東京都立豊島病院	62																																																					
東京都立墨東病院	200																																																					
東京都立多摩総合医療センター	300																																																					
東京都立多摩北部医療センター	54																																																					
東京都立東部地域病院	36																																																					
東京都立多摩南部地域病院	24																																																					
<p>生体腎移植件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">病院名</th> <th style="width: 50%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立大久保病院</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立大久保病院	10																																																		
病院名	目標値（件）																																																					
東京都立大久保病院	10																																																					

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 手術支援ロボットを4病院で新規導入し、ロボット支援下手術を推進するとともに、内視鏡手術、腹腔鏡下手術、血管内治療等、低侵襲な医療を積極的に提供した。また、大久保病院において、地域医療機関を訪問して生体腎移植に係る情報提供を実施し、連携強化を図りながら生体腎移植が必要な患者の積極的な受入れを推進するなど、各指標が目標値を上回った。
- 東京都アレルギー疾患医療拠点病院である小児総合医療センターにおいて、様々なアレルギー疾患に対応した専門的医療を提供するとともに、医療従事者の育成、情報提供及び普及啓発活動などに取り組んだ。
- 各病院において、外国人向けコーディネーターや医療通訳が中心となり、自動翻訳機器、ビデオ通訳等も活用しながら、外国人が安心して適切な医療を受けられるよう取り組んだ。
- 急性大動脈スーパーネットワークや東京都CCUネットワークに参画し、高齢化に伴い増加が予想される脳血管疾患医療、心疾患医療等を適切に提供した。また、広尾病院では、脳卒中相談窓口を設置し、脳卒中療養相談士を中心に、脳卒中患者及びその家族の相談支援に取り組んだ。
- 患者権利章典について、旧都立病院及び旧公社病院での制定から20年以上経過し、医療や病院を取り巻く環境、社会情勢の変化等内外の環境変化を踏まえた、新たな「都立病院患者権利章典」の制定に向けて準備を進めた(令和6年5月制定)。
⇒ アレルギー疾患、腎移植、脳血管疾患、心疾患等の幅広い疾患に対応しつつ、外国人向け医療を着実に実施したこと、ロボット支援下手術等の低侵襲な医療を数多く提供したことは高く評価できる。

2 災害や公衆衛生上の緊急事態への優先した対応

災害や公衆衛生上の緊急事態に対して、人的・物的資源を最大限活用し、各病院等が機動的に対応していくとともに、都の方針の下、都や関係機関と連携し、優先して取り組む。

項目	年度計画
13	<p>(1) 災害医療における緊急事態への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急事態においては、都の方針の下、都や区市町村、地域の医療機関等と連携しながら、各病院の役割に応じて重症者等を積極的に受け入れるなど、求められる災害医療を確実に提供する。 ○ 災害発生の状況に応じて、医師や看護師等の人員配置の見直しを機動的に行うことなどにより、効率的・効果的な患者受入体制を整備する。 ○ 都内だけでなく都外における大規模災害発生時にも、都の要請の下、DMATやDPATの派遣を行う。 ○ 災害に対する緊急対応が生じた場合は、取組を検証する体制を構築し、都と適宜情報共有しながら、求められる取組等について法人全体で検討を行う。 <p>(2) 感染症医療における緊急事態への対応</p> <p>ア 新型コロナウイルス感染症への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症について、都の方針の下、都や保健所等の関係機関と連携しながら、積極的な患者の受入れなど法人全体で求められる対応を確実に実施する。 ○ 新型コロナウイルスの感染状況に応じて、医師や看護師等の人員配置を適宜見直すとともに、各病院の診療体制の再編などにより専用病床を柔軟に確保し、効率的・効果的な感染症医療提供体制を整備する。 ○ 感染拡大時にひっ迫する救急医療等の必要な行政的医療を提供するなど、通常医療との両立を図りながら新型コロナウイルス感染症の対応を行う。 ○ 新型コロナウイルス感染症の治療後や療養後の息苦しさ、呼吸機能をはじめとした後遺症の相談に着実に対応する。 ○ 新型コロナウイルス感染症への取組を検証し、都と適宜情報共有しながら、求められる取組等について法人全体で検討を行う。 ○ 都や保健所等と連携し、地域等のニーズに応じて、クラスターが発生した地域の施設等に職員を派遣して感染管理に関する指導・助言等を行うなど、地域の施設等における感染拡大防止のための支援を行う。 <p>イ その他の新興・再興感染症への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ その他の新興・再興感染症が発生した際は、都の方針の下、都や保健所等の関係機関と連携しながら、感染症指定医療機関を中心に法人全体で求められる感染症医療を確実に提供する。

評 定 : S (年度計画を大幅に上回って実施している)

- D M A T 隊員・D P A T 隊員等の育成や医薬品等の備蓄を着実に進めるとともに、危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院全体の危機管理に係る基本的対処方針の検討等、危機管理対応力の強化に取り組み、令和6年能登半島地震への適切な対応にもつなげた。
 - 能登半島地震に際しては、都の方針等を踏まえた上で、D M A T (計6班、延べ27名)やJ M A T (計13班、延べ56名)を速やかに派遣するとともに、看護師(計14クール、延べ28名)を継続的に派遣することで、被災地の医療現場を支えた。対応にあたっては、現地活動拠点を独自に設置するなど状況に応じた取組を積極的に行い、全14病院が協働して対応することで、切れ目のない支援を実現した。
 - 新型コロナの5類移行後も、病床の確保、発熱外来や高齢者等医療支援型施設(府中)の運営、後遺症相談窓口での対応等、様々な取組を継続し、都における通常の医療提供体制への円滑な移行に貢献した。
 - R S ウイルス、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱等、各感染症の流行時には、都や地域医療機関と連携しながら積極的な対応を行い、多くの救急患者を受け入れた。
- ⇒ 平時における災害対応力強化の取組を能登半島地震への対応に生かし、D M A T 等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援等、被災地支援に最大限貢献したほか、各種感染症へ幅広く対応しつつ、新型コロナの5類移行後も様々な取組を継続したことは大いに評価できる。

3 地域医療の充実への貢献

項目	年 度 計 画
14	<p>(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院に設置する運営協議会などを通じて地域ニーズを適切にとらえるとともに、地域の医療機関等との連携の強化を図り、地域包括ケアシステムの構築を支援する。 ○ 各病院が有する医療資源や特性、強みを生かしながら、地域の医療機関との機能分担と連携を一層推進し、患者の紹介、返送・逆紹介を積極的に進める。 ○ 地域の医療機関等とのICTを活用した情報共有や地域の医療従事者に向けた研修等を通じて連携を一層強化する。 ○ 各病院が保有する高度医療機器について、ニーズを踏まえながら地域の医療機関との共同利用に取り組む。 ○ 病院救急車を有する病院において、地域への周知を進め、自力移動が困難な在宅患者等の搬送を行うなど、積極的に活用する。 ○ 地域の医療機関とも連携し、高齢化に伴い増加が予想される脳卒中や心筋梗塞など、地域において不足する医療に着実に対応する。 ○ 地域の医療機関等との連携を強化し、在宅療養患者の急性増悪時における受入れに着実に対応する。 ○ 患者・地域サポートセンターの患者支援機能と地域支援機能の充実・強化を図る。 ○ 患者やその家族等の様々な不安の解消を図るため、看護相談や医療福祉相談など、多様なニーズに応じた相談支援を実施する。 ○ 各病院の機能に応じ、がん相談や外国語による医療相談など専門的な支援に取り組む。 ○ 退院後も安心して地域で療養できるよう、退院後の服薬指導などの支援を実施する。 ○ 地域の医療機関や訪問看護ステーション等との連携や情報共有を一層推進し、地域における療養生活を支援する。 ○ 東京総合医療ネットワークなどの地域医療ネットワークや医療介護用SNSの活用を進める等、ICTを活用した患者情報の共有を推進し、在宅療養生活を支える地域の医療機関・介護事業者等を支援する。 ○ 入院初期の段階からの入院サポートや退院後の地域生活を見据えた転退院支援を行い、円滑な在宅移行を支援する取組を充実する。 ○ 地域のニーズに応じて、地域の医療機関等に医師、看護師、薬剤師等の様々な専門人材を派遣し、技術支援を行う。 ○ 各病院が行う専門研修等への地域人材の受入れや地域と連携した公開講座の開催に積極的に取り組み、地域医療を支える人材の育成を支援する。

目標値（令和5年度）

病院名	紹介率（%）	返送・逆紹介率（%）
東京都立広尾病院	65.0	50.3
東京都立大久保病院	60.3	82.4
東京都立大塚病院	76.1	63.1
東京都立駒込病院	80.0	60.0
東京都立豊島病院	70.0	79.6
東京都立荏原病院	74.6	87.6
東京都立墨東病院	90.0	64.5
東京都立多摩総合医療センター	97.5	103.5
東京都立多摩北部医療センター	69.0	84.2
東京都立東部地域病院	94.4	93.7
東京都立多摩南部地域病院	88.3	98.3
東京都立神経病院	38.5	—
東京都立小児総合医療センター	77.0	62.9
東京都立松沢病院	55.2	67.9
東京都立がん検診センター	—	—
法人計	79.0	76.0

紹介率（%）＝紹介患者数（初診）／初診患者数・（救急搬送患者数＋夜間休日の救急患者数＋健診受診者数）

返送・逆紹介率（%）＝逆紹介患者数／初診患者数・（救急搬送患者数＋夜間休日の救急患者数＋健診受診者数）

訪問看護同行支援件数

病院名	目標値（件）
東京都立大久保病院	20
東京都立荏原病院	2
東京都立墨東病院	20
東京都立多摩総合医療センター	15
東京都立多摩北部医療センター	12
東京都立東部地域病院	6
東京都立神経病院	30
東京都立小児総合医療センター	32
東京都立松沢病院	40

評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 各病院等において、連携訪問や、WEBカンファレンス、高度医療機器の共同利用、病院救急車の活用等を通じて、地域の医療機関との機能分担と連携強化を図り、紹介率、返送・逆紹介率の向上に努めた。
 - 各病院の運営協議会等が出た意見を病院運営に反映するなど、地域の医療ニーズを適切にとらえながら連携強化を図ったほか、急性心血管疾患等の医療の提供や、急性増悪時の患者の受入れに着実に対応した。
 - 患者・地域サポートセンターにおいて、地域の医療機関、訪問看護ステーション等との退院時の合同カンファレンスや多様な相談への対応を行ったほか、医療介護用SNSを活用した情報共有などにより、患者とその家族が安心して療養生活を継続できるよう支援した。
 - 東京総合医療ネットワークについて、加盟予定のない松沢病院を除く未加盟の都立病院が順次加盟申請を行うなど、診療情報の共有に向けて取り組んだ。また、相談支援や転退院支援を幅広く実施し、在宅療養等への移行を推進した。
 - 地域の医療機関等に対し、研修会や出前講座の開催による地域医療を支える人材の育成や、訪問看護同行支援などによる技術支援を実施した。
- ⇒ 東京総合医療ネットワークに未加盟の都立病院が順次加盟申請を行う等、様々な取組を着実に実施したことは評価できる。引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、紹介率、返送・逆紹介率の向上と地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んで欲しい。

項目	年 度 計 画
15	<p>(2) 健康増進及び疾病予防に向けた普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 疾患や治療・予防に関する情報をWEBサイトや広報紙を通じて積極的に発信するとともに、都民を対象とした公開講座を開催し、医療やフレイル予防等に関する知識の普及や啓発に努める。 ○ 地域の自治体が行う健康増進施策等とも連携し、T o k y oヘルスケアサポーター養成講座を開催するなど、健康づくりや病気の予防等の普及啓発を推進する。
<p>評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 機構公式LINEアカウントの開設等、発信力の強化を図ったほか、各病院等が発信している医療や健康に関する情報を一元化し、広く都民へ発信するなど、医療等の知識の普及や啓発に努めた。 ○ 島しょ地域での出張都民公開講座の開催、小・中学校でのがん教育の実施、がん検診に関する自治体主催の健康講座への講師派遣等、様々な形で健康増進や疾病予防等に向けた普及啓発に努めた。 ○ T o k y oヘルスケアサポーター養成講座として、がんに関する講演会の開催や健康に役立つレシピ紹介などのパネル展示を行った。また、都営住宅等の居住者や地域住民等を対象として、都立病院の知見や専門性を生かした講座や相談等を実施し、健康で心豊かな生活の支援や地域コミュニティの活性化を目指していくため、東京都住宅政策本部及び東京都住宅供給公社との三者で包括連携協定を締結するなど、都や政策連携団体とも協力しながら普及啓発の推進に努めた。 <p>⇒ LINEアカウントの開設や島しょ地域での出張都民公開講座、T o k y oヘルスケアサポーター養成講座の開催、次年度以降の取組に向けた包括連携協定の締結など、様々な取組を着実に実施したことは評価できる。引き続き、都民に対する健康づくりや病気の予防等の普及啓発に取り組んでほしい。</p>	

4 安全で安心できる質の高い医療の提供

項目	年 度 計 画
16	<p>(1) 患者中心の医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多職種が連携して、栄養サポートチームや緩和ケアチームなどのチーム医療を推進し、患者中心の質の高い医療を提供する。 ○ 適切なインフォームドコンセント等により、患者が自ら様々な意思決定を行えるよう支援する。 ○ クリニカルパスを積極的に活用するとともに、適時適切な見直しを行うことで医療の標準化を図り、良質な医療を効率的に提供する。 ○ 患者や地域のニーズを踏まえ、外来化学療法を平日夜間に拡大するなど、患者の治療と生活の両立を支援する取組を推進する。 ○ 患者・地域サポートセンターの患者支援機能や地域支援機能の充実・強化を図り、患者の円滑な入院・転退院を適切に支援する。 ○ 患者やその家族等の様々な不安の解消を支援するため、看護相談や医療福祉相談など、多様なニーズに応じた相談支援体制を充実する。 ○ 退院後の服薬指導など、地域生活も見据えた支援を実施する。 ○ 東京総合医療ネットワークなどの地域医療ネットワークや医療介護用SNSの活用を進める等、ICTを活用した患者情報の共有を推進し、地域の医療機関等との連携を強化することで、円滑な転退院や患者が住み慣れた身近な地域で安心して適切な医療を受けられるよう支援する。 ○ 患者満足度調査の実施及び分析により患者ニーズの把握に努め、接遇能力の向上を図るなど、患者サービスの改善・向上に向けた取組を推進する。 ○ 施設の整備や改修の際、また患者の声などを踏まえながら、各施設の状況に応じたデジタルサイネージの活用やユニバーサルデザインの導入などにより、高齢者や障害者、外国人など、誰もが安心して適切な医療を受けられる環境整備に取り組む。 ○ 診察待ち時間の有効活用に向けて、患者が自身のスマートフォン等で呼び出し情報等を確認できるアプリを導入するなど患者の利便性向上に向けた取組を推進する。 ○ 病院内でWi-Fiの導入を推進し、患者ニーズに応えられるネットワークの環境を整える。 ○ 広報紙、WEBサイト、SNS、民間企業や自治体等の多様な媒体の活用、ボランティアと協力した院内外でのイベント開催や地域のイベントへの参加などにより、法人や各病院等の情報を積極的に発信し、かつ都民にわかりやすく効果的な広報活動を推進する。

目標値（令和5年度）

患者満足度

病院名	目標値(入院) (%)	目標値(外来) (%)
東京都立広尾病院	79.7	83.8
東京都立大久保病院	83.0	78.0
東京都立大塚病院	85.3	80.3
東京都立駒込病院	94.6	85.6
東京都立豊島病院	90.7	80.8
東京都立荏原病院	87.7	86.1
東京都立墨東病院	86.7	73.5
東京都立多摩総合医療センター	98.6	83.6
東京都立多摩北部医療センター	89.6	76.2
東京都立東部地域病院	87.2	86.3
東京都立多摩南部地域病院	87.1	78.2
東京都立神経病院	87.4	—
東京都立小児総合医療センター	70.4	86.0
東京都立松沢病院	53.9	83.7
東京都立がん検診センター	—	80.1

評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 患者満足度調査で目標を達成したのは、入院調査では14病院中8病院、外来調査では14施設中6施設であったが、各病院等で患者サービスの改善・向上に向けて具体的な取組の検討を進めた。
 - 各病院において、多職種連携により質の高い医療の提供に取り組んだほか、クリニカルパスの積極的な活用と適切な見直しにより、良質な医療を効率的に提供するよう努めた。
 - アドバンス・ケア・プランニングに関する研修会の開催や指針の策定など、各病院において、患者の適切な意思決定支援に取り組んだ。
 - 患者ニーズに対応し、3病院で患者向け全館Wi-Fiサービスの提供を開始したほか、駒込病院においてピクトグラムの充実を図るなど、誰もが安心して適切な医療を受けられる環境整備に取り組んだ。
 - 機構のリーフレットや紹介資料を新たに作成し、紹介動画をホームページ等で配信するなど、各病院等の情報を発信した。また、各病院等が開催する講演やイベント等をとりまとめた「イベントカレンダー」を毎月作成し、機構ホームページや公式LINE、X（旧Twitter）で発信するなど、効果的な広報活動に取り組んだ。
- ⇒ アドバンス・ケア・プランニングの推進やWi-Fiの整備等、患者の立場に立った意思決定支援や環境整備に取り組んだほか、都民への効果的な広報活動を推進したことは評価できる。引き続き、患者満足度の向上を目指し、患者中心の医療の推進に向けて取り組んでほしい。

項目	年 度 計 画
17	<p data-bbox="276 174 619 212">(2) 質の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="263 244 1474 356">○ 各病院の特性に応じて、医療の質を可視化する臨床評価指標であるQ I（クオリティ・インディケーター）を設定し、P D C Aサイクルに基づく継続的な改善の取組を実施するとともに、取組状況を積極的に発信し、医療の質の向上に取り組む。 <li data-bbox="263 387 1474 459">○ 各病院における医療安全委員会の運営などを通じて、医療安全に関する情報共有の推進や取組の検討及び効果分析等を行う。 <li data-bbox="263 490 1474 604">○ 医療安全に関するヒヤリハット事例の集積やインシデント・アクシデント・レポートの分析などにより医療安全管理体制を確保し、実効性の高い予防策・再発防止策の構築に着手に取り組む。 <li data-bbox="263 633 1474 748">○ 医療安全推進週間を設定し、各病院で医療安全の向上に資する取組を行うとともに計画的な医療安全研修の実施などにより、職員一人ひとりの医療安全に対する一層の意識向上に取り組む。 <li data-bbox="263 777 1474 848">○ リスクマネジメント研修などにより、各病院等の医療安全対策を担う人材育成に積極的に取り組む。 <li data-bbox="263 878 1474 949">○ 地域のニーズに応じ、地域の医療機関等への医療安全研修の実施や院内研修への地域人材の受入れ等を行い、地域全体の医療安全意識の更なる向上に寄与する。 <li data-bbox="263 978 1474 1050">○ 感染対策の取組を強化し、感染源や感染経路等に応じた予防策を検討するなど、院内感染予防に向けた取組を着実に推進する。 <li data-bbox="263 1079 1474 1115">○ 国の薬剤耐性（AMR）対策を踏まえた適切な薬剤耐性対策を実施する。 <li data-bbox="263 1144 1474 1216">○ 地域の医療機関との連携を強化し、地域のニーズに応じた医療機関向けの感染管理支援など、地域全体の院内感染対策の向上に寄与する。

評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)

- Q1について、全病院で共通して活用できる指標を検討し、令和6年度計画において目標値として設定することで、機構として継続的な改善を行う体制を構築した。
- 各病院では、医療安全推進委員会や専従リスクマネージャーが中心となって、インシデント・アクシデント・レポートの検証、再発防止策の立案など、様々な医療事故予防対策を実施したほか、リスクマネージャー会や医療事故予防対策部会で事案を共有し、都立病院全体の医療安全管理体制の確保につなげた。
- 機構全体の医療安全週間を設定の上、各病院において巡回点検や研修等の取組を実施し、医療安全に対する一層の意識向上に取り組んだほか、医療安全担当者を対象としたリスクマネジメント研修の実施により、医療安全対策を担う人材の育成に取り組んだ。また、地域のニーズに応じて医療安全研修を実施するなど地域の医療安全意識の向上にも取り組んだ。
- 感染制御チームや抗菌薬適正使用支援チームが中心となり、各病院における院内感染対策の取組を着実に実施したほか、地域医療機関への訪問指導や合同カンファレンスによる感染管理指導を行うなど、地域における院内感染対策の向上にも寄与した。
 - ⇒ インシデント・アクシデント・レポートの活用や地域医療機関への感染管理指導等、医療安全管理体制の確保や院内感染対策の推進に取り組むとともに、Q1の目標値設定により、継続的に改善に取り組む体制を確保したことは評価できる。引き続き、医療の質の向上と環境整備に取り組んでほしい。

5 診療データの活用及び臨床研究・治験の推進

項目	年 度 計 画						
18	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人本部研究推進センターにおいて、各病院の臨床研究や治験の受入れを支援する。 ○ 国家戦略特区における保険外併用療養等の特例を活用した先進医療の提供などを通じて、医療の質の向上に貢献する。 ○ 各病院が持つ様々な診療データの集積やその分析、活用に向けた検討を進め、更なる医療の質の向上に取り組む。 ○ 研究機関や大学、企業等との人材交流が可能となる人事・給与制度のもと、多様な主体と連携した研究、研究マインドを持った人材の育成を推進する。 ○ 外部資金の適切な受入れと管理を行い、臨床研究等を推進する。 ○ 各病院等の倫理委員会を適切に運営し、国の法令やガイドラインに則り、倫理面及び安全面に十分に配慮した質の高い臨床研究等を推進する。 <p style="margin-left: 20px;">目標値（令和5年度）</p> <p style="margin-left: 20px;">治験・受託研究実施数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">病院名</th> <th style="width: 40%;">目標値（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都立駒込病院</td> <td style="text-align: center;">200</td> </tr> <tr> <td>東京都立小児総合医療センター</td> <td style="text-align: center;">55</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	目標値（件）	東京都立駒込病院	200	東京都立小児総合医療センター	55
病院名	目標値（件）						
東京都立駒込病院	200						
東京都立小児総合医療センター	55						

評 定 : B（年度計画を概ね順調に実施している）

- 機構の研究推進センターにおいて、各病院の臨床研究の受入れを支援したほか、小児総合医療センターにおいて、国家戦略特区を活用した先進医療や医師主導治験といった質の高い臨床試験を引き続き推進するなど、医療の質の向上・発展に取り組んだ。
 - データプラットフォーム（データを蓄積し利活用するためのシステム基盤）について、多摩総合医療センターでの導入を進めつつ、その機能や運用状況を踏まえて、令和6年度以降の他病院での導入に向けた検討を行った。
 - 各病院で倫理委員会を適切に運営し倫理面・安全面に配慮したほか、東京都公立大学法人東京都立大学と共催でオープンユニバーシティ講座として臨床研究研修を実施するなど、臨床研究の基本概念や実施の際に必要な知識等の定着を図った。
 - 機構として、臨床フィールドや教育研究力等の活用によって医療の充実向上等に資することを目的に、東京都医学総合研究所、地域医療機能推進機構、東京医科歯科大学と包括連携協定を締結した。
- ⇒ データプラットフォームの導入等、診療データの集積と活用に向けて取り組んだほか、国家戦略特区を活用した先進医療や医師主導治験といった臨床試験等を着実に推進したことは評価できる。引き続き、臨床研究・治験の取組を推進し、医療の質の向上・発展への寄与に努めてほしい。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

項目	年 度 計 画
19	<p>1 効率的・効果的な法人運営体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 迅速かつ柔軟な人材確保が可能となる人事・給与制度等のもと、医療ニーズに応じた効率的・効果的な病院運営を行う。 ○ 機動的な医療機器の整備等が可能となる会計制度等のもと、医療課題に応じた効率的・効果的な病院運営を行う。 ○ 病院現場の課題やニーズ等を適切に把握して法人の運営方針や意思決定に適切に反映させ、各病院等が連携しながら法人の運営方針に沿った自律性・機動性の高い病院運営を行う。 ○ 病院運営において病院長等はガバナンスを発揮し、医師の採用や診療報酬改定、医療課題等に迅速かつ柔軟に対応する。 ○ 法人本部戦略推進室において各病院等の運営支援等を行うとともに、各病院事務局計画課等において、患者ニーズや地域の医療ニーズ等の分析を行うなどにより、トップマネジメントを支援する。 ○ 法人本部統括事務センター、ICT推進センター及び研究推進センターにおいて業務の集約化や業務フローの見直しを図り、効率的・効果的に業務を執行する。 ○ 人事・給与、勤怠管理等のシステム間連携による入力業務の効率化や科学研究費などの外部資金管理のシステム化などにより、業務改善を推進する。 ○ 庶務事務に関する諸手続きの電子化や電子決裁などの利用促進を図り、ペーパーレス化をより一層推進する。 ○ 公平性、透明性を確保しつつ、引き続き契約の集約化や事務手続きの簡素化を図り、業務の効率化を推進する。 ○ 法人本部及び病院等が一体となって、様々な業務改善に取り組む体制を整備する。 <p>2 人材の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が有する能力や専門性を最大限生かすことができる人事制度や採用困難な人材を確保することが可能となる給与制度のもと、人材を安定的かつ機動的に確保する。 ○ 専門性を高め、キャリアアップに資する資格取得支援制度等により、人材育成に取り組む。 ○ 高度・専門的医療等の提供に必要な専門人材を時機を逸することなく採用し、医療課題や患者ニーズに機動的に対応する。 ○ 幹部候補を対象とした研修などにより、将来の病院運営を担う人材の計画的な育成に取り組む。 ○ 東京医師アカデミーの運営等により、総合診療能力と専門臨床能力をあわせ持つ質の高い医師の確保・育成に取り組む。 ○ 大学や地域の医療機関と連携しながら、入院患者の様々な症候への対応や特定の診療科だけでは対応が難しい患者に対応できる総合診療医の確保・育成に取り組む。

- 東京看護アカデミーの運営等により、習熟段階に応じたキャリアアップを支援するなど、看護職員の確保・育成に取り組む。
- 各職種の特長性に応じた研修の実施や資格取得に係る学会参加費などの支援などにより専門性を一層高め、コメディカル職員の確保・育成に取り組む。
- 患者サービス向上の取組の企画力や病院経営に関する知識を有し、診療情報の分析や診療報酬請求事務などの経験を有する事務職員の積極的な確保に取り組む。
- 診療報酬に関する研修や経営管理に必要な資格の取得支援などにより、専門性の高い事務職員の育成に取り組む。
- テーマ別改善運動の取組等を通じて、職員の意識改革や職場の活性化を促し、積極的に業務改善に取り組む組織風土を醸成する。
- 職員向け広報紙の発行や職員間での意見交換、職場での勉強会などを通じて、法人で働くことの誇りや職員としての一体感を醸成に取り組む。

目標値（令和5年度）

新卒看護師離職率 9%以内

職員満足度調査（東京都立病院機構の一員として働くことにやりがいを感じていますか） そう思う・ややそう思うの割合 70%以上

3 効率的・効果的な業務運営

（1）働きやすい勤務環境の整備

- 職員の専門性や能力を適切に反映した人事・給与制度や職員の業績や専門性を適切に評価する人事考課制度のもと、意欲を持って業務に取り組むことができる環境を整備する。
- 職員のライフスタイルやライフステージに合わせた勤務時間制度、勤務形態等のもと、職員のライフ・ワーク・バランスに配慮した、働きやすい環境を整備する。
- 人事・給与、勤怠管理等のシステム間連携による入力業務の効率化や科学研究費などの外部資金管理のシステム化などにより、業務改善を推進する。
- 医師事務作業補助者等の拡充などよりタスクシフティングを推進し、職員が専門性を一層発揮できる生産性の高い職場づくりにより、働き方改革を推進する。
- 特に医師については、国の働き方改革の方針を踏まえ、勤務負担軽減や健康維持・増進に取り組む。

（2）弾力的な予算執行

- 中期計画の期間内で弾力的な予算執行が可能となる会計制度のもと、効率的・効果的な病院運営を行う。
- 病院運営において病院長等はガバナンスを発揮し、医師の採用や診療報酬改定、医療課題等に迅速かつ柔軟に対応する。

評 定 : A (年度計画を上回って実施している)

- 職員満足度について、目標には届かなかったものの令和4年度から大きく改善したほか、新卒看護師離職率は目標を達成するなど大幅に改善した。
 - 経営戦略担当理事の勉強会を新たに職種別で開催するなど、トップマネジメントの支援力の強化に引き続き取り組んだ。また、新たに業務改善プロジェクトを開始し、マニュアル等の整備による標準化やRPAの活用による自動化など、法人本部と病院等とが一体となって業務の効率化に取り組んだ。
 - 管理職選考の対象職種の見直しや法人職員の病院選考に係る対象職種の試行的拡大等を行い、各病院の実情を踏まえながら、専門人材の確保に努めた。また、特に看護要員については、病院長の裁量による採用に加え、法人本部での採用選考の追加実施等により、機構全体としてコロナ禍前の水準まで職員を確保した。
 - 人材育成・活用プロジェクトのプロジェクトチームや、ワーキンググループ、各職種の代表者会等で検討を重ねるなど、多くの職員の参画を得ながら「都立病院人材育成ビジョン」を策定し、職種別のキャリアラダーを示すなど、機構における人材育成に関する取組の方向性等を明示した。
 - 医師の働き方改革に対応するため、外勤を含めた労働時間の集計などシステム改修を行なったほか、医師事務作業補助者の活用等によるタスクシフティングの推進や、各病院等との連絡会における制度の具体的運用に向けた検討等を実施した。
- ⇒ 新卒看護師離職率が目標を達成したほか、業務改善・効率化や、多くの職員の参画を得ながら検討を重ねた「都立病院人材育成ビジョン」の策定、人材確保、働き方改革への対応等、幅広い取組を実施したことは高く評価できる。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

項目	年 度 計 画																																																			
20	<p>1 財務内容の改善</p> <p>○ 法人の役割を将来にわたり安定的かつ継続的に果たし、都の医療政策に貢献し続けていくため、収入の確保と適切な支出の徹底に努め、財務内容の改善に着実に取り組む。</p> <p>目標値（令和5年度）</p> <p>経常収支比率 96.8%</p> <p>医業収支比率 76.9%</p>																																																			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">病院名</th> <th style="text-align: center;">病床利用率（%）</th> <th style="text-align: center;">平均在院日数（日）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都立広尾病院</td><td style="text-align: center;">60.3</td><td style="text-align: center;">10.5</td></tr> <tr><td>東京都立大久保病院</td><td style="text-align: center;">73.0</td><td style="text-align: center;">10.7</td></tr> <tr><td>東京都立大塚病院</td><td style="text-align: center;">84.7</td><td style="text-align: center;">10.1</td></tr> <tr><td>東京都立駒込病院</td><td style="text-align: center;">68.8</td><td style="text-align: center;">12.3</td></tr> <tr><td>東京都立豊島病院</td><td style="text-align: center;">62.5</td><td style="text-align: center;">10.4</td></tr> <tr><td>東京都立荏原病院</td><td style="text-align: center;">53.3</td><td style="text-align: center;">10.9</td></tr> <tr><td>東京都立墨東病院</td><td style="text-align: center;">77.7</td><td style="text-align: center;">11.7</td></tr> <tr><td>東京都立多摩総合医療センター</td><td style="text-align: center;">90.8</td><td style="text-align: center;">10.6</td></tr> <tr><td>東京都立多摩北部医療センター</td><td style="text-align: center;">71.5</td><td style="text-align: center;">9.6</td></tr> <tr><td>東京都立東部地域病院</td><td style="text-align: center;">68.9</td><td style="text-align: center;">8.4</td></tr> <tr><td>東京都立多摩南部地域病院</td><td style="text-align: center;">74.8</td><td style="text-align: center;">7.6</td></tr> <tr><td>東京都立神経病院</td><td style="text-align: center;">72.3</td><td style="text-align: center;">19.5</td></tr> <tr><td>東京都立小児総合医療センター</td><td style="text-align: center;">72.5</td><td style="text-align: center;">11.6</td></tr> <tr><td>東京都立松沢病院</td><td style="text-align: center;">75.5</td><td style="text-align: center;">61.8</td></tr> <tr><td>東京都立がん検診センター</td><td style="text-align: center;">—</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> <tr><td>法人計</td><td style="text-align: center;">73.0</td><td style="text-align: center;">12.2</td></tr> </tbody> </table>	病院名	病床利用率（%）	平均在院日数（日）	東京都立広尾病院	60.3	10.5	東京都立大久保病院	73.0	10.7	東京都立大塚病院	84.7	10.1	東京都立駒込病院	68.8	12.3	東京都立豊島病院	62.5	10.4	東京都立荏原病院	53.3	10.9	東京都立墨東病院	77.7	11.7	東京都立多摩総合医療センター	90.8	10.6	東京都立多摩北部医療センター	71.5	9.6	東京都立東部地域病院	68.9	8.4	東京都立多摩南部地域病院	74.8	7.6	東京都立神経病院	72.3	19.5	東京都立小児総合医療センター	72.5	11.6	東京都立松沢病院	75.5	61.8	東京都立がん検診センター	—	—	法人計	73.0	12.2
	病院名	病床利用率（%）	平均在院日数（日）																																																	
	東京都立広尾病院	60.3	10.5																																																	
	東京都立大久保病院	73.0	10.7																																																	
	東京都立大塚病院	84.7	10.1																																																	
	東京都立駒込病院	68.8	12.3																																																	
	東京都立豊島病院	62.5	10.4																																																	
	東京都立荏原病院	53.3	10.9																																																	
	東京都立墨東病院	77.7	11.7																																																	
	東京都立多摩総合医療センター	90.8	10.6																																																	
	東京都立多摩北部医療センター	71.5	9.6																																																	
	東京都立東部地域病院	68.9	8.4																																																	
	東京都立多摩南部地域病院	74.8	7.6																																																	
	東京都立神経病院	72.3	19.5																																																	
	東京都立小児総合医療センター	72.5	11.6																																																	
	東京都立松沢病院	75.5	61.8																																																	
	東京都立がん検診センター	—	—																																																	
	法人計	73.0	12.2																																																	
		<p>（1）収入の確保</p> <p>○ 令和4年度診療報酬改定に的確に対応し、各病院の特性に応じた新たな施設基準を取得するとともに、医療機能強化等を着実に実施することにより、収入の確保に努める。</p> <p>○ 医事算定業務等直営化によるノウハウを着実に蓄積するとともに、診療報酬の確実な請求や請求漏れの防止に取り組む。</p> <p>○ 地域の医療機関との病病連携や病診連携を強化し、紹介、返送・逆紹介を推進するとともに、柔軟で効率的な病床運用により、地域の患者を着実に受け入れる。</p> <p>○ 未収金の発生防止に向け、支払相談や案内を丁寧かつきめ細かく行うとともに、利用可能なキャッシュレス決済を広める等の取組を行う。</p> <p>○ 未収金の発生後には、マニュアルに基づく速やかな催告の徹底、困難案件への適切な対応を行うなど、未収金対策に着実に取り組む。</p>																																																		
	<p>（2）適切な支出の徹底</p> <p>○ DPCデータ、診療データ等の分析や、原価計算などの活用を進め、職員のコスト意識向上を図りながら病院運営を行い、適切な支出の徹底に努める。</p> <p>○ 放射線機器の共同購入や保守委託契約の集約化を開始するとともに、他の医療機器等の共同購入・保守委託等の検討を進める。</p>																																																			

- 引き続き交渉権入札を実施するとともに多様な契約手法の導入について検討を進め、費用の節減に努める。

評 定 : C (年度計画を十分に実施できていない)

- 病床利用率や平均在院日数など、令和4年度より改善した指標はあるものの、コロナ禍での落ち込みから回復し切れておらず、経常収支比率、医業収支比率等、全ての指標が目標に届かなかった。
 - 収入の確保については、「断らない救急の徹底」等の受入体制強化に機構全体で取り組んだほか、令和5年度に新設された加算の速やかな取得や、請求漏れの防止に係る病院間での課題共有等、診療報酬制度への適切な対応と確実な請求に努めた。
 - また、新たに2病院で診療費後払いサービスを導入したほか、未収金回収業務について契約した法律事務所へ委任する運用方法を全病院で統一するなど、未収金の発生防止等に努め、未収金率の改善につなげた。
 - 適切な支出の徹底については、コンサルティングを活用して委託費や診療材料価格の適正化を図ったほか、国立大学病院長会議やJCHOとの共同調達を開始するなど、費用の節減に向けて幅広く取り組んだ。
- ⇒ 都立病院では、コロナ禍でコロナ患者対応に注力した結果、通常医療における地域医療機関や救急隊等との関係が薄れたことから、患者数の減少に至ったものであり、現在、救急患者の積極的な受入れ等に取り組んでいるが、緩やかな回復となっている。都立病院を含め、都内医療施設全体で患者数がコロナ禍前までには戻っていないなど、病院を取り巻く環境が厳しい状況にあることは承知しており、都立病院が収入の確保と適切な支出の徹底に向けて取り組んだことは評価するが、各経営指標が目標を下回り、計画を大きく上回る純損失を計上することとなったことから、引き続き改善に向けた取組が必要である。病床利用率等の指標は令和4年度より改善していることや、翌事業年度への繰越金は計画を上回っていることから、次年度以降の更なる取組とその成果に期待する。

第 10 その他業務運営に関する重要事項

項目	年 度 計 画
21	<p>1 病院運営におけるDXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ AI を搭載した画像診断支援システムの導入等により、医療の質を高め患者中心の医療を推進する。 ○ 東京総合医療ネットワークなどの地域医療ネットワークや医療介護用 SNS の活用を進める等、ICT を活用した患者情報の共有を推進し、在宅療養生活を支える地域の医療機関・介護事業者等を支援する。 ○ 島しょ医療機関との間で 5G を活用した遠隔医療を推進する。 ○ 人事・給与、勤怠管理等のシステム間連携による入力業務の効率化や科学研究費などの外部資金管理のシステム化などにより、業務改善を推進する。 ○ 庶務事務に関する諸手続きの電子化や電子決裁などの利用促進を図り、ペーパーレス化をより一層推進する。 ○ 病院運営におけるDXの推進に向けて都と連携して策定した計画に基づき、国で推進している電子処方箋などの取組も進めながら、QOS（クオリティ・オブ・サービス）の向上に取り組む。 <p>2 施設・設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都立広尾病院の整備について、「広尾病院整備基本計画」（令和元年 10 月策定）及び「広尾病院及び広尾看護専門学校整備等事業実施方針」（令和 3 年 12 月策定）に基づき、PFI 手法による新病院整備に向けた事業者選定等の手続きを進めていく。 ○ 多摩メディカル・キャンパスの整備について、PFI 手法により外来がん検査・治療センター（仮称）及び難病医療センター（仮称）の設計等を進めていく。 ○ 東京都立多摩北部医療センターについて、「東京都立多摩北部医療センター整備基本構想」に基づき、基本計画の策定を着実に進める。 ○ 各病院等における改築・改修等の大規模整備計画について、施設整備手法も含め適宜、見直しを図りつつ、各病院の老朽化状況を適切に把握し、長寿命化を含めた修繕や改修を行っていく。 ○ 各病院が持つ医療機能や地域の医療ニーズ、医療課題等を踏まえながら、費用対効果を十分に検討し、高額医療機器の更新計画の見直しを適宜行う。 <p>3 適正な業務運営の確立</p> <p>（1）情報セキュリティ・個人情報保護の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）及び個人情報の保護に関する法律施行条例（令和 4 年東京都条例第 130 号）等に基づき、定期的な点検活動や研修等を通じ、法人全体で個人情報保護対策を実施する。 ○ サイバーセキュリティに関する研修やセキュリティ監査等を通じて、職員一人ひとりのセキュリティ意識及びインシデント対応能力の向上を図る。 ○ 法人本部 ICT 推進センターにおいて、継続的にサイバーセキュリティ強化のための対策を図るとともに、インシデント・アクシデント情報を法人全体で共有して再発防止を図るなど、サイバーセキュリティ対策に取り組む。

- ランサムウェア攻撃などの、高度化・巧妙化するサイバー攻撃から医療情報システムを守り、病院等における診療継続機能を強化するため、外部接続点の管理強化や、新たなセキュリティ機能の採用などのセキュリティ対策を進めていく。

目標値（令和5年度）

情報セキュリティ研修受講率 100%

(2) コンプライアンスの推進

- 内部統制の体制等に基づき、適正な業務運営を推進する。
- 各種研修の実施等により、職員一人ひとりが公的医療機関の一員として医療法（昭和23年法律第205号）をはじめとする関係法令を遵守する組織風土を醸成するなど、コンプライアンスを徹底する。
- 医療現場の特性に応じた汚職等非行防止の研修等を実施し、職員のコンプライアンス意識を向上させる。

4 都立病院の魅力発信

- 広報紙、WEBサイト、SNS、民間企業や自治体等の多様な媒体の活用、ボランティアと協力した院内外でのイベント開催や地域のイベントへの参加などにより、法人や各病院等の情報を積極的に発信し、かつ都民にわかりやすく効果的な広報活動を推進するとともに、研修等により法人全体の広報対応力の向上を図る。

5 関係機関との連携

- 東京都関連施設、大学病院及び他の地方独立行政法人等の医療関係機関と、研究、人材育成、人材交流及び共同購入など相互の連携強化を図ることで、医療関連情報の共有や業務の効率化、他団体のノウハウの吸収など、組織の活性化に継続的に取り組む。

6 外部からの意見聴取

- 東京都立病院機構有識者会議を開催し、各分野の委員の意見を聞きながら法人運営を行う。
- 全病院等において運営協議会等を開催し、地域の関係者の意見を聞きながら病院等の運営を行う。

評 定 : B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 2病院を対象にサイバー攻撃を意識した模擬テストを実施し問題がないことを確認したほか、サイバーセキュリティ監査中期計画を策定するなど、サイバーセキュリティ対策に取り組み、情報セキュリティ研修受講率は100%を達成した。
 - 広尾病院の整備において、令和6年度の事業契約に向けて落札者と基本協定を締結したほか、多摩メディカル・キャンパスの整備については、実施設計を行うとともに、多摩総合医療センター東館の工事を実施するなど、それぞれの施設整備を着実に推進した。
 - WEBフォームにおける個人情報の誤表示や、訪問調査時の個人情報紛失、医薬用外劇物の紛失、医療観察法病棟入院患者の一次所在不明といった複数の事故が発生した。
 - ロケ撮影の積極的な受入れやSNS等を活用した情報発信など、都立病院の認知度向上や効果的な広報活動の推進に向けて取り組んだ。
 - 包括連携協定による連携先と、人材育成に関する取組や病院運営に係る情報交換を行うなど、組織の活性化に取り組んだ。
 - 有識者会議を2回開催したほか、全ての病院等で運営協議会を開催し、有識者や地域の関係者から幅広い意見を聞きながら病院等の運営を行った。
- ⇒ DX推進に向けた取組を行うとともに、着実に施設整備を進めたほか、都立病院の情報発信や関係機関との連携を進めたことは評価できる。引き続き、有識者会議や運営協議会等で得た外部からの助言・提言等を機構や病院の運営に生かすとともに、各事故の再発防止策を適正に講じ、コンプライアンスの推進に取り組んでほしい。